

平成24年度 第一回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録（案）

日時：平成24年 6月 7日（木）13：30 ～ 16：10

会場：東京大学物性研究所 6階 第2会議室

出席者：小森文夫(会長、東大物性研) 雨宮健太(KEK) 奥田太一(広島大) 尾嶋正治(東大工)
木下豊彦(JASRI) 組頭広志(KEK) 近藤寛(慶応大) 坂本一之(千葉大) 大門寛(奈良先端大)
藤森淳(東大理) 吉信淳(東大物性研)

オブザーバー：辛埴(東大物性研) 松田巖(東大物性研) 原田慈久(東大物性研)

配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 平成24～25年度 会長・幹事選挙結果報告書
- ・ 平成24～25年度 会長・幹事名簿
- ・ 平成23年度会計報告書
- ・ 平成24年度賛助会員リスト（平成24年6月5日現在）
- ・ 平成23年度第一回幹事会議事録（案）
- ・ つくば分室資料
- ・ フォトンファクトリー・ビームラインBL18A、19での共同利用実験停止について（案）
- ・ 極限コヒーレント光科学研究センター（仮称）の設立趣意書
- ・ ISSPワークショップ「東京大学アウトステーション(SPring-8 BL07LSU)での研究成果と今後の展望」（2012. 2.17 開催）冊子

報告・議事

- ・ 議事に先立ち、小森文夫会長より会長就任の挨拶が行われた。
- ・ 平成24、25年度 会長・幹事選挙について
吉信淳選挙管理委員長（東大物性研）より、平成24、25年度の会長・幹事選挙結果について報告され、承認された。
- ・ 委員長選出
平成 24、25 年度の各委員長が小森会長より推薦され、承認された。
計画委員長 藤森 淳（東大理）
会計委員長 奥田太一（広大放射光）
庶務委員長 坂本一之（千葉大融合科学）
編集委員長 組頭広志（KEK）
会計監事 吉信 淳（東大物性研）

- 平成23年度会計報告

吉信淳前会計監事より平成23年度の会計報告が行われ、承認された。

また、今年度の賛助会員13社（平成24年6月5日現在）が紹介され、今後の会費有効活用についての議論が行われた。

- 賛助会員各社に対して、ニュースレターでの記事掲載の他、活動状況・研究会等の案内、成果報告冊子の送付を行う。Webでの詳細掲載も検討する。
- 会員の他学会委員会等参加旅費を、要請があれば当懇談会にて負担する。

- 平成23年度活動報告

1. 放射光連携研究機構の現状

尾嶋正治放射光連携研究機構長より、機構の運営体制、今後の活動予定と検討課題等の報告が行われた。

- 柿崎明人前物質科学部門長の退職に伴い、後任に辛埴施設長が就任した。
- 共同利用課題審査を7月9日に、追って、運営委員会（日程未定）を開催する。
- 今後の課題である共同利用旅費は、物性研究所と検討を行う。

2. SPring-8 東大アウトステーションの現状

松田巖播磨分室准教授より、アウトステーションビームライン BL07LSU の設備、実験・運営状況の報告が行われた。

- アンジュレータ光源の偏光度解析結果の報告、高速偏光スイッチングの開発と現状報告、今後の予定
- 各エンドステーションにおける共同利用研究の報告
- 今年度より共同利用課題申請数が急増。平成24年度後期は、6月11日が締め切りとなる。

3. 物性研つくば分室の現状

辛埴施設長より、つくば分室の現状と共同利用状況が報告された。

- 今年度より小森文夫教授がつくば分室を兼務で担当。助教、技術職員各1名の常駐職員とともに運営を行う。
- 共同利用実験は、BL18A、19A, B 全て順調に行われている。
- 平成23年8月の会員への通知どおり、BL19Bは平成24年度末で停止する。
- 老朽化による BL18A、19 全ての共同利用実験停止案が報告され、7月開催予定の軌道放射物性研究施設運営委員会にて検討を行うこととする。

4. KEK-PF の紹介

関連して、組頭広志高エネルギー加速器研究機構教授より、KEK-PF のアンジュレータビームライン整備計画の概略が説明された。

5. FEL 利用計画、極限コヒーレント光科学研究センター設立と今後の共同利用について

辛施設長より、つくば分室廃止後の研究体制・物性実験（案）についての説明が行われた。

・軌道放射物性研究施設は以下の拠点を置き、最先端分光を開発することにより物質科学に貢献し、共同利用に供していく予定である。

- アウトステーション BL07LSU
- SACLA の軟 X 線 FEL ビームライン

・軟 X 線レーザーに関しては、極限コヒーレント光科学研究センターの設立趣意書が紹介され、10月1日の発足を目指して準備が進行中であることが報告された。

・ 今後の活動方針

1. SPring-8 BL07LSU の研究成果発表会を ISSP-Workshop として例年通り行う。
2. 全国組織の VUV・SX 光物性研究会開催を物性研で検討する。

・ その他

VUV・SX の将来を、ユーザーコミュニティの意向を汲みながら連携を考慮すべきである。今後のサイエンスを、研究会等で議論してはどうか。

(議事録 事務局)